

生体の科学

SEITAI NO KAGAKU

Vol.69 No.5 — 2018 Sep. - Oct. 目次

[増大特集] タンパク質・核酸の分子修飾

特集「タンパク質・核酸の分子修飾」によせて 編集委員一同 383

I. 細胞核での分子修飾

・DNA

メチル化	牛島俊和・竹島秀幸	384
ヒドロキシメチル化	中村肇伸	386
脱アミノ化	若江亨祥・村松正道	388

・RNA

メチル化	Jean-Michel Fustin・岡村 均	390
シュードウリジン化	北川 翔・鈴木 勉	392
脱アミノ化	Amrizal Muchtar・飯笹 久	394
チオ化	鳴 直樹	396
ヒドロキシル化	鈴木健夫・鈴木 勉	398

・ヒストン/核内タンパク質

アセチル化	山下りえ・他	400
脱アセチル化	中山潤一	402
メチル化	前田 亮・立花 誠	404
脱メチル化	岡下修己・立花 誠	406
モノユビキチン化	立石 智	408
リン酸化 (セリン・スレオニン)	中西 真	410
シトルリン化	有田恭平	412
ADP-リボシル化	上田國寛・他	414
O-グリコシル化	廣澤瑞子・他	416
アシル化	川島茂裕	418

II. 細胞質/オルガネラでの分子修飾

・タンパク質合成

ホルミル化	富田 (竹内) 野乃	420
ジフタミド修飾	小池雅昭	422
ハイブシン化	松山晃久・吉田 稔	424

・細胞内シグナル

リン酸化 (セリン/スレオニン)	寺井健太・松田道行	426
リン酸化 (チロシン)	笹島 仁・大場雄介	428
リン酸化 (セリン/スレオニン/チロシン)	今城正道・松田道行	430
リン酸化 (ヒスチジン)	饗場浩文	432
脱リン酸化 (セリン/スレオニン)	高井 章	434
脱リン酸化 (チロシン)	畠山昌則	436
アセチル化/脱アセチル化	英山明慶・岡本浩二	438

・酸化還元状態

ヒドロキシル化	田久保圭誉	440
S-グルタチオニル化	高田 剛・他	442
S-ニトロシル化	平岡秀樹・上原 孝	444
ポリスルフィド化	西村 明・他	446
SH (ポリスルフィド) 酸化	西村 明・他	448
ニトロ化・S-グアニル化	津々木博康・他	450

カルボニル化	戸田年総	452
・タンパク質機能・品質管理		
ユビキチン修飾	村田茂穂	454
ユビキチンリン酸化	松田憲之	456
SUMO 化	斉藤寿仁	458
NEDD 化	加藤裕紀・西頭英起	460
ISG15 修飾	奥村文彦	462
プロリン異性化	中津祐介・他	464
スクシニル化	古園さおり	466
マロニル化	西田友哉	468
アルギニル化	黒坂 哲	470
アデニル化	澤 嘉弘	472
ピログルタミル化	斉藤貴志・西道隆臣	474
・微小管		
チロシン化, 脱チロシン化	小西慶幸	476
グルタミン酸付加	池上浩司	478
脱グルタミン酸化	木村芳滋・金子朋未	480
グリシン付加	池上浩司	482
アセチル化, 脱アセチル化	永井友朗・水野健作	484
・アクチン		
翻訳後修飾	黒坂 哲	486
Ⅲ. 細胞膜での分子修飾		
・膜局在		
ミリストイル化	内海俊彦	488
パルミトイル化	木原章雄	490
イソプレニル化	岡田正弘	492
・膜タンパク質		
GPI アンカー結合	村上良子・木下タロウ	494
N-結合型グリコシル化	真木勇太・他	496
O-結合型グリコシル化	岡本 亮・他	498
C-マンノシル化	井原義人	500
ポリシアル酸化	佐藤ちひろ・北島 健	502
Ⅳ. 細胞外での分子修飾		
・分泌タンパク質		
C 末端アミド化	佐々木一樹・他	504
オクタノイル化	椎村祐樹・他	506
γカルボキシル化	東 浩太郎・井上 聡	508
チロシン硫酸化	角田佳充	510
脱ヨード化	村上正巳	512
・細胞外基質/その他		
ヒドロキシル化	多賀祐喜	514
糖化ストレス	米井嘉一・他	516
カルバモイル化	猪阪善隆	518
シトルリン化	佐藤 衛	520